

第 97 号

2021 年 8 月  
発刊

堀川病院

地域医療連携室だより

### 医師紹介 消化器内科 部長 藤原 淳

日本消化器内視鏡学会認定消化器内視鏡指導医、専門医 日本内科学会認定総合内科医  
日本消化器病学会認定消化器病専門医 日本医師会認定産業医

本年 4 月より消化器内科部長を拝命しました藤原 淳（あつし）と申します。平素は当院の消化器内科診療および内視鏡業務に御協力賜り誠に有難うございます。

2020 年 1 月に発生したコロナウイルスは未だ猛威を振るっており、1 年半が経過した現在でもコロナ禍から脱することができない状況が続いています。当院は昨年 4 月にコロナウイルスの院内感染に見舞われましたが、近隣の先生方の御協力も頂き、現在では通常の業務を遂行することが可能となり、大変感謝しております。



私は平成 8 年に福井大学医学部を卒業し、京都府立医科大学消化器内科（旧第 3 内科）に入局しました。大学では内視鏡研究室に配属され、主に早期大腸癌の診療に従事して参りました。大学院では感染病態学教室（旧医動物学教室）に入学し、線虫感染の免疫学的メカニズムにつき研究し、学位を取得しました。大学の関連病院では、大津市民病院、公立丹南病院（旧国立鯖江病院）、済生会京都府病院に勤務し、臨床医として研鑽を積んで参りました。

当院には平成 20 年 4 月に赴任しましたが、早くも 13 年が経過し、現在勤務中の常勤内科医の中では 5 番目に古い存在となりました。その間内視鏡診療は徐々に業務内容を拡大していくことが出来ました。現在では、ルーチン検査の上部・下部消化管内視鏡検査、大腸ポリープ切除術（Cold Polypectomy、EMR）、食道・胃の早期癌に対する内視鏡的粘膜下層剥離術(ESD)や内視鏡的粘膜切除術(EMR)、ERCP 関連手技(EST、EPBD、総胆管結石採石術)、内視鏡的消化管・胆管ステント留置術、経皮内視鏡下胃瘻造設術、内視鏡的上部・下部消化管止血術、食道静脈瘤関連手技(EIS、EVL、APC)、内視鏡的消化管異物除去術、内視鏡下経鼻的・経肛門的イレウス管挿入術など多岐に渡り消化器内視鏡診療を行っております。また、内視鏡検査および治療中の苦痛の軽減を図るべく、検査中に必要となった場合や、

希望される患者様には開始時よりセデーション（鎮痛剤、鎮静剤を投与）を施行して、患者様の苦痛の軽減に努めております。

内視鏡室のスタッフにおきましては、一層のレベルアップを図るために内視鏡業務カンファレンスおよび勉強会を月1回行っており、個々の特殊検査および処置の施行前に術前カンファレンスを、施行後に術後の訪問を行い、患者様の病態把握に努めております。

先生方には以前よりお世話になり大変感謝しておりますが、今後もより良い病診連携を築けるようさらなる努力をして参りますので、今後とも宜しくお願い申し上げます。



## 臨床栄養科のご紹介

堀川病院臨床栄養科では、日々入院患者様の栄養状態を評価し、栄養状態が安定するよう他職種連携のもと栄養を管理いたしております。患者様の病態は勿論のこと嚥下の状態も評価した上で食事提供をしております。私たちの役割でとても大切に行っている事は、退院後も変わりなく安全に食事を召し上がってもらえるように支援することです。退院支援では、できる限り在宅でも病院と同じような食事を召しあがって頂けるように、多職種で検討調整しております。

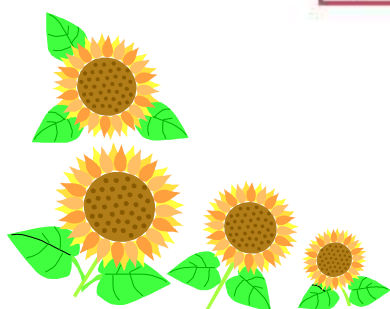
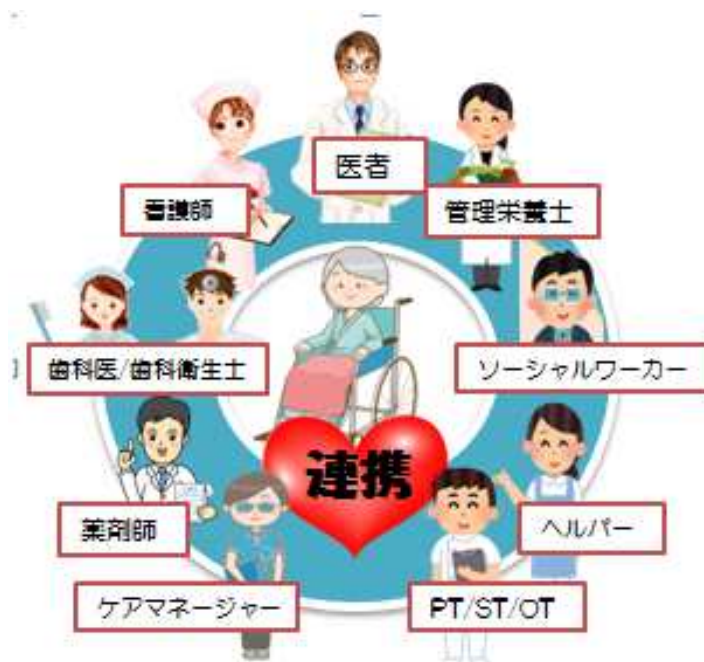
私ごとになりますが、同居しておりました87歳の母が、昨年8月に偽痛風になりました。元々気管支拡張、ネフローゼの疾患があり、日々しっかり栄養が摂れるよう栄養剤で補助しながら栄養管理をしておりました。偽痛風になる2週間ほど前から食欲がなくなったため、飲みやすい栄養剤を選び体力が落ちないように努力しておりました。突然足が腫れ偽痛風と診断を受け、血液検査をしたところCRPが15もあり、食欲もないのは当然だと納得しました。抗生物質の効果であつという間に腫れは治まりましたが、やはり食欲が戻りません。主治医に相談して消化剤を出してもらった所、次の日から食欲が戻り何とか早い回復ができました。

私は医療にかかわる仕事をしているので、様々な予測のもとに行動できます。しかし大半の場合、ご家族は不安の中、様子を見ることしかできないのではないかと思います。対応が遅くなることで、体力も落ち、なかなか回復できない。やはりこういう場合は、できるだけ早く私たち管理栄養士が在宅と連携し介入することが大事だと改めて感じた所です。

以前から在宅指導は行っておりますが、さらに早い栄養介入のため積極的に訪問できればと考えています。コロナの影響で、入院中に行っていたご家族への調理指導、調理済み食品の提案、補助食品の利用方法などの指導ができなくなっています。患者様が退院後も、安全に召し上がっていただき、栄養介入が継続してできるように、ご家族、ヘルパーさんに在宅指導で個々に応じた分かりやすい指導にしたいと考えています。ご質問等にもお答えできればと思っております。食事、栄養面で問題のある場合は、地域医療連携室を通して、一度堀川病院臨床栄養科にご連絡ください。退院された後、ご家族が安心して食事を準備し、患者様が召し上がっていただけるようにこれからもより一層頑張っていきます。よろしくお願いいたします。



臨床栄養科 室長 笹井 めぐみ



## 編集後記

コロナ禍で東京 2020 オリンピック・パラリンピック競技大会が開催されました。新型コロナウイルス感染症の感染拡大が懸念される中で様々な意見もありましたが開催され、感染拡大の不安とともに、選手の活躍に期待を寄せていました。その中で競技が始まり、日本選手の皆さんのメダルラッシュ。その選手の皆さんの姿に勇気や力をもらいます。

また選手の皆さんが語られる言葉には、開催への感謝やこの大会に込める思い、これまでに取り組んできた様々な思い…。その言葉を聞くと何とも言えない気持ちにもなります。

オリンピックは8月8日に閉会を迎えました。選手の皆さんが様々な思いの中で競技に参加され、懸命に取り組まれたこの大会が今後の社会によい影響を与えてもらえればと思います。

まだまだ新型コロナウイルス感染症の感染拡大は収まりません。少しでも早く落ち着くことを願っています。

地域医療連携室 久須窪充仁



## 休診日のお知らせ

8月16日（月）は全科休診となります

社会医療法人 西陣健康会 堀川病院 地域医療連携室

お問い合わせ TEL : 075-417-3760

FAX : 075-417-3766

Eメール : hori-ren@mbox.kyoto-inet.or.jp